

シッダ・ヨーギたちの体験

1982年10月2日満月の夜、インド、ガネーシュプリーにあるシッダ・ヨーガのアーシュラム、グルデーヴ・シッダ・ピートゥで、バーバ・ムクターナンダはマハーサマーディを遂げ——物理的な体から離れて、普遍の大いなる意識に融合しました。

1982年10月のバーバのマハーサマーディのあなた自身の体験を投稿するには、下のリンクをクリックしてください。



1982年10月2日の満月の日、SYDA ファウンデーションのスタッフの仲間と私は、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムからそれほど遠くないニューヨーク州のキャッツキル山地を運転していました。私たちは屋根を開けた小さなスポーツカーに乗っていました。よく晴れた日でした。紅葉の鮮やかな赤、黄色、オレンジ色が輝いていました。

アーシュラムに戻ると、クリスマス用の照明が点灯していました。私たちは、バーバがマハーサマーディを遂げたと教えられました。

今でも、あの日は光と輝きとバーバの色彩に満ちていたことが心に響いています。私はあの日は一日中、バーバの光に浸り、包まれていると感じていました。

米国メリーランド州



1982年の秋、私は研究を完成させるために新しい都市に引っ越しました。私はその1年前に、瞑想の中でバーバからシャクティパートを受け取っていました。

私は、シッダ・ヨーガの修行を探究する上で私を支えてくれていた活力あるシッダ・ヨーガのコミュニティを離れたことを悲しく思いました。私は新しい町にサンガムがあればと切望していました。

1982年10月2日の夜、私が通っている大学の門前で、ある人が私に近づき、「ヨーガに興味はありますか?」と尋ねました。私は思わず足を止めました。バーバが私に、新しいサンガムを探す必要はない、代わりに自分がそのような信奉者のグループの中心となることができる、と言っているように感じました。私は新しい目的意識を持って家に帰りました。翌日、ある友人が、バーバがマハーサマーディを遂げたという知らせを伝えてきました。

2年後、私は同じ町に住んでいた唯一の他のシッダ・ヨーガに出会い、やがて私たちはシッダ・ヨーガ瞑想センターを設立し、私は現在もなおそこに通っています。私は、センターはバーバの祝福の現れだと感じました。

オーストリア、ウィーン



1982年10月2日の満月の日の夜、私は10歳の娘に、バーバがたった今、彼の体を去ったと話しました。7歳の時にバーバに会った娘は穏やかに言いました。「バーバは死んでいない。バーバは今みんなの心の中にいるんだよ」

フランス、パリ



1982年10月2日の満月の日、私はメリーランド州に住んでいました。私は、バーバが彼の体を離れたこと、何人かがインドに行くつもりだという電話を受けました。私には1歳の子がいて、海外に行くことはかないませんでした。しかし、その夜は両親が来ていたので、私はワシントンDCのシッダ・ヨーガ・アーシュラムに行くことができました。そこでは「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」のチャンティングが始まっており、それは何週間も中断することなく続きました。

さらに私は、仕事から帰る途中で毎日アーシュラムに行きました。私は何日も泣き続けましたが、ある日、壁に掛かったバーバの写真が目にとまりました。彼はベンチに座り、口元に笑いを浮かべていました。突然、「私は生きている、私はどこかに行ってしまったのではない、私は信奉者たちの心に入った——私はあなたの心の中にいる」と、非常にはっきりと言うバーバの声が聞こえました。私の心から生まれた温かい感覚が、私の体中に広がりました。私の涙は笑いになり、バーバの言ったことが真実だと分かりました。今日でも、バーバが私の心の中に、彼を知り、愛するすべての人々の心の中に、しっかりと座していることを知っています。

米国ウェストバージニア州



1982年10月2日の満月の夜、私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥにいて、女性用の大部屋で寝ていました。私は夜空に奇妙なほどに響き渡る「オーム・ナモー・バガヴァター・ニッティヤーナンダーヤ」のチャンティングで目覚めました。突然ドアをノックする音がして、バーバが病気だから、服を着てニッティヤーナンダ・テンプルに行ってチャンティングに加わるようにとされました。夜が明けてから、バーバがマハーサマーディを遂げたと発表されました。

その後、皆がバーバの住まいに招かれ、彼の最後のダルシヤンを得ました。バーバはオレンジ

色の絹に身を包み、背筋を伸ばして足を組んだ姿勢で座っていました。その場の空気は、触れられんばかりのきらめくエネルギーの波のようで、私は立っているのがやっとでした。

アーシュラムにいる間、私はバーバのための縫い物のセーヴァーを与えられていました。私は忍耐と、小さく均一な縫い目で絹を縫う方法を学びました。バーバの体を覆ったオレンジ色の絹を見た時、そのセーヴァーをささげたことの意義に気づきました。

オーストラリア、オーシャンショアーズ



1982年10月2日の満月の日の午後、私は夫を迎えに空港まで車で約30キロの道を運転していました。美しい晴れた日でした。運転中、至る所にバーバの存在を感じました。彼は私の周りにいて、私が目を向けたどこにでもいました。私はバーバへの愛に満たされ、深い幸福を感じました。

わが家に着くと、バーバがマハーサマーディを遂げたことを知らせる電話がかかってきました。私の幸福と愛は一層大きくなり、バーバの存在を感じ続けています。

米国メリーランド州



1982年10月2日の満月の夜、爽やかで肌寒い夕べでした。友人の家に車で寄って、勝手口を入ると——すぐに2人の女性が私を出迎え、目を見開いて真剣な関心をもって私を見詰めていました。1人が、「ムクターナンダが今日亡くなったって聞いてないのね」と言いました。彼女たちは私がバーバを信奉していることを知っていました。

私はこのニュースに驚きましたが、全く悲しくありませんでした。むしろ私はすぐに、自分のグル

とより深くつながっていると感じました。友人たちは、私が泣き出さないことに驚きました。彼女たちは、そのような知らせを伝えると私が悲嘆に暮れるのではないかと心苦しく思っていたのです。しかし、悲嘆に暮れる代わりに、バーバと常につながっているという感覚で、私の心は広がりました。それ以来、ずっとそうです。

米国カリフォルニア州



1982年10月2日の満月の夜、私はニューヨーク市のアパートに帰ろうと歩いていました。中に入る直前、私はこの体という贈り物もらったことに感謝しながら、巨大な満月を一瞬見詰めました。家に帰り、ベッドに横たわり、すると突然、体が硬直して動かなくなりました。ベッドの上の天井が青空に変わり、それが巻き取られて空間が開き、美しい顔が現れました。その人は、「私はあなたを愛している」と言いました。

次に、雷の音が聞こえ、背骨に沿ってとどろき渡る感覚がありました。頭のとっぺんで、私は自分自身が神意識であると感じ、背骨を上ったり下ったりする間、人間や他の多くの生命体としての私の過去生を体験しました。この間ずっと、私のグル、バーバ・ムクターナンダの喜びに満ちた笑い声が聞こえていました。私は彼が、「それらの過去生の間ずっと、私はあなたと一緒にいた。そして、これからもずっと、あなたと一緒にいるだろう」と言っていると感じました。

この状態から覚めて再び動けるようになると、私は寝室を出ました——そしてその時初めて、ルームメイトから、バーバ・ムクターナンダがマハーサーマディを遂げたという知らせを聞きました。

米国ニューヨーク州



1982年10月2日の満月の夜、私はバーバがマハーサマーディを遂げたという知らせを受けました。私はがくぜんとし、「私のグルがこのように私を見捨てることができるのだろうか！」と全く信じられませんでした。

この時から次に覚えているのは、チャンティングです。日中、時間さえあればチャンティングをしました。毎晩、誰かの家で他のシッダ・ヨーギたちと会い、「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」を2、3ラウンド、生演奏と共にチャンティングしました。週末には、パリのシッダ・ヨーガ・アーシュラムで行われていた1カ月間のサプタに加わりました。

チャンティングするたびに、同じ奇跡が起こりました。確実に、私の悲しみや喪失感は溶け、深く生き生きとした安らぎが取って代わったのです。その月の終わりには、いつもバーバの前で感じていたのと同じ、甘美な満足と愛が広がった境地で沐浴(もくよく)していました。そして、彼は私たちに与えた修行の中で、私のそばにいてくれることを、私は確信したのです。

フランス、ボーベ



1982年10月2日の満月の日、私はフランスのパリにあるシッダ・ヨーガ・アーシュラムの住人でありスタッフでした。その日の夕食後、私たちはチャンティングホールで、いつもの夕方のチャンティングに臨んでいました。

チャンティングの最中、私は突然、自分の体がどんどん重くなっていくのを感じました。ある時点で、体があまりに重くなり、もはや座っていられなくなりました。チャンティングの間はホールでは横になれなかったため、私は自分の部屋に行ってベッドに横になりました。体がとても重く、本当に奇妙に感じました。何が起きているのか分かりませんでした。ベッドの上で死にかけているとさえ思いました。

後になって、アーシュラムの他の住人から、バーバがグルデーヴ・シッダ・ピートウでマハーサマーディを遂げたと聞きました。突然、私はバーバへの献身と彼との強いつながりが、同じ時間に自分も死んでいくような気持ちにさせていたことに気づきました。

米国ニューヨーク州



1982年10月2日の満月の日、バーバのマハーサマーディの時に、私は瞑想をしていました。私は、バーバが小さな木製の船で私の近くに現れたビジョンを見ました。私が立っている水際に着くと、彼は急いで船に乗るようにと私に言いました。一息置いて、バーバは今すぐ船に乗るようにと私に繰り返しました。そして、私たちはより深い水域へと向かいました。バーバは前に座っていました。彼が船をこぎ、辺りは穏やかで平和でした。間もなく、私はバーバがもうそこにいないことに気づき、不安になりました。その時、あるメッセージが、内なる知識が、湧き起こり始めたのです——実際には私がグルであり、シッダ・ヨーガの実践と十分な努力によって、この知識は完全に開花することができる、というものでした。

米国オレゴン州



1982年10月、私はバーバが古い石造りの教会らしきものの中の祭壇の前に立っているという鮮明な夢を見ました。バーバは直接私に尋ねました。「それで、この1週間はどうかだったかい？ 知りたいのだ。この1週間はどうかだったかい？」

私は驚いて答えず、それから目が覚めました。その同じ日、同じコミュニティーのシッダ・ヨーギが私に電話をかけてきて、バーバが1週間前にマハーサマーディを遂げたと教えてくれました。



1982年10月2日の満月の日、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムでは美しい秋晴れの日でした。私はアーシュラムのマネジャーとしてセーヴァーをささげていました。昼食後、私はひどく落ち込んだ気分で自分の部屋に戻りました。私の妻もそこにいて、どういふ訳か悲しい気持ちなのでした。これは非常に珍しいことだったので、私たちは昼間には決してしなかつたことをしました——私たちは自室のプージャーでアーラティーをささげました。午後2時、私は自分のオフィスに戻りました。中に入ると、テレックスの機械が動き始めました。そこで目にしたことが、信じられませんでした。「バーバ・ムクターナンダはマハーサマーディを遂げました」

それからの2時間、私はテレックスで、グルデーヴ・シッダ・ピートウからより詳しい情報を受け取りました。午後4時、ついに伝送は終わりました。私たちはバーバが亡くなったことを発表し、「オーム・ナモ・バガヴァター・ニッティヤーナンダーヤ」のチャンティングを始めました。そして間もなく、歌詞は自然に「オーム・ナモ・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」に切り替わり、チャンティングは数週間続きました。

米国カリフォルニア州



満月の日の1982年10月2日、カリフォルニア州オークランドの自宅で瞑想をしていた私は、寂しい場所に一人きりで、暗闇の中で怖がっている自分のビジョンを見ました。突然、私は頭上にきらめく光の粒子を見て、自分の周りにバーバの存在を感じました。

まばゆく輝く光を見詰めながら、私は「バーバだ! バーバだ!」と、大きな声で叫びました。そして、

こうして、私は瞑想から出てきました。瞑想の中でバーバの存在を体験したのは、その時が初めてでした。

その日の午後、オークランドのシッダ・ヨーガ・アーシュラムは、バーバがグルデーヴ・シッダ・ピートゥでマハーサマーディを遂げたという知らせを受けました。私はその朝の瞑想の体験に慰められました。そして、バーバはいつも私と一緒にいて、あらゆる害から私を守ってくれるだろうと感じました。

多くの信奉者たちの瞑想の中に、その日バーバが現れたと、後から知りました。

米国カリフォルニア州



1982年10月2日の満月の夜、私は家族と一緒にグルデーヴ・シッダ・ピートゥにいました。中庭のそばを歩いていると、バーバが暗闇の中でグルマーイと並んで座っているのが見えました。バーバが私たちを見ているのを感じました。私はそこに行ってバーバにプラナムをささげなかったのですが、それは不適切かもしれないと思ったので、心の中でプラナムをささげました。

アーシュラムの至る所に響き渡る「オーム・ナモー・バガヴァター・ニッティヤーナンダーヤ」の音で、夜明け前に目を覚ましました。私は何が起こっているのかを見るために中庭に行って、バーバがマハーサマーディを遂げたと教えられました。バーバのエネルギーは触れることができそうなほどで、至る所できらきらと輝いていました。

その日その後で、アーシュラムの全員が、バーバの住まいの中を歩いて、バーバとダルシャンすることに招かれました。バーバは足を組んだ姿勢で、絹の布で覆われていました。私は、私

たち全員がバーバのエネルギーに包まれていると感じ、バーバが大いなる意識と融合したので、彼のシャクティは私たちの中に溶け込んだのだと感じました。

私たちはそれぞれ、バーバの住まいから品物を与えられました。私は今でもビーズで飾られたボウルを、自分のプージャーに置いてあります。この時のことを思い出すと、バーバの祝福はいつも私と共にあると感じます。

オーストラリア、セントヘレンズ



とても多くのシッダ・ヨーギたちが記した、マハーサマーディを遂げた瞬間にバーバが彼らを訪れたというユニークな体験談を読みながら、私は自分自身の予期せぬ体験を思い出しました。

当時、私はパリに住んでいて、シッダ・ヨーガの道を知ったばかりでした。私はバーバが彼の肉体を去ったことを知りませんでした。けれども、1982年10月2日のその日、私は突然、バーバが私の心に入ってきたのを感じました。そして、バーバを自分のグルとして認識するという贈り物を与えてくれたと感じました。今日に至るまで、私は、たびたび右手を自分の胸に置きます。バーバがそこにいること、私の心の中で永遠に生きていることが分かるのです。

何と祝福された心の慰めでしょう。私はバーバに深く感謝しています。

カナダ、サットン



1982年10月2日、バーバ・ムクターナンダがマハーサマーディを遂げたという電話を受けた時、自分が自宅のどこに立っていたかを正確に覚えています。私はぼうぜんとなりました。それから、感謝の気持ちがあふれてきました。

私がシッダ・ヨーガの道を歩み始めたのは、バーバが2度目のワールドツアーを終えて1976年10月にインドに戻った直後でした。自宅の近くのシッダ・ヨーガ・アーシュラムに通うにつれ、バーバに実際に会いたいという私の願いはますます強まっていきました。1年後、夫と私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥに行きました。出発する前に私は、実際のバーバに会えることを当然とは決して思わないと誓いました。

私は誓いを守りました。私はバーバと一緒に過ごす一瞬一瞬を味わいました。ダルジャンの間バーバの足元に座った時や、ただ遠くに彼のオレンジ色のローブを垣間見たりする、そんな機会があるごとに、それに浸りました。

バーバが体を去ったと聞いた時、私はバーバの祝福を受けるために自分ができる限りのことをしてきたと分かっていました。私は心から深く感謝しました。そしてその瞬間、私はバーバが私の心に永遠に入っていると感じました。

米国ミシガン州



1982年10月2日の満月の夜、私たちはバーバがマハーサマーディを遂げたという知らせを電話で聞きました。どうした訳か夫は財布を開き、すると最初に目に入ったのは、「覚えておきなさい、私はいつもあなたと一緒にいる」と書かれたバーバの写真でした。私の夫は、最期までこれを信じていました。

米国イリノイ州



1982年10月2日の満月の夜は、とても特別で、祝福された、縁起の良い夜だったと、私は常に心に留めています。両親は廊下にバーバの肖像画を飾っていて、毎晩、寝るために2階に上がる時、私はバーバを見て心の中で「おやすみなさい」と言ったものです。1982年のその夜、私はバーバの口元が文字通り私にほほ笑んでいるのを見ました。私は少し眠かったので、目をこすってもう一度見ると——バーバは再びほほ笑みました。「わー、すごーい！」と思い、非常に驚いて、心の中に喜びと甘美さを感じながらベッドに向かいました。

翌朝早くに電話が鳴り、バーバがマハーサマーディを遂げたという知らせが届きました。当時、私は10代でした。39年後、シュリー・グルマーイは私のグルであり、バーバは、私の人生において常に靈妙に存在し続けています。

英国ファーンバラ



1982年10月の満月の日、私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥでセーヴァーをささげていました。その日の早い時間に、私は自分の誕生日を祝うために、グル・チョークのバーバのダルシャンに行っていました。私は近くに座るように招かれ、バーバが彼の足を見るように私に言うのを聞きました。バーバの鮮やかな色の靴下に集中していると、私は自分が彼の至福に融合するのを感じました。まさにその時、バーバは跳び上がるとホールを出て行きました。

その夜、私は眠りに就くと、バーバがクジャクの羽根で私を軽くたたいてシャクティで満たし、「シュリー・グル・ギター」の第32節を私に朗唱している夢を見ました。「グルはブラフマーである。グルはヴィシュヌである。グルはシヴァ神である。グルはまさにパラブラフマンである。シュリー・グルに敬意を表す」。私がこの驚くべき夢からハッとして目が覚めたのは、バーバがマハーサマーディを遂げたと誰かが私に言いに来たためでした。中庭に行くと大勢の信奉者

たちが愛と涙でいっぱいになりながらお互いを抱き締め合っているのを見るまで、現実とは思えませんでした。

米国マサチューセッツ州



1982年10月2日の満月の日、私はシッダ・ヨーギたちの非公式な集まりに出席し、チャンティングと瞑想をしてバーバを思い出していました。その後、私たちが座って話している時、その話題は、バーバが恋しいことと、もう二度とバーバと一緒にいられないということに集中していました。

そのすぐ数分後、シャクティパートを受け取った日と全く同じように、バーバが今も私の心の中にいることに気づきました。私は喜び始めました。なぜなら、バーバを見つけるために、もうどこかに行く必要は全くないのです——バーバと一緒にいるために必要なことは、ただ内側を見ることなのです！

米国ユタ州



1982年10月の輝かしい秋の日、私はケンブリッジにあるシッダ・ヨーガ瞑想センターで毎週の「シュリー・グル・ギター」の朗唱に出席していました。その後、私たちは皆座って、バーバと私たちのサーダナーについて長い間話しました。誰もが、このサツァングがどれほど喜ばしく、シャクティに満ちているかについて話しました。

私が友人からバーバがマハーサマーディを遂げたと聞いたのは、その日の遅くになってからでした。ショックを受けたものの、私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥに行こうと決めました。私は数週間後に到着しました。ダルシャンで、グルマーイと共に座っていると、バーバは偉大な慈

悲をもって、私たちをグルマーイの保護の下に置いたと感じ、私の悲しみは和らぎました。それ以来、私はあらゆる面で完全に守られてきました。そして、私のバーバは決して私のそばを離れなかったと分かっています。

オーストラリア、サンドゲート



1982年10月2日の朝、私はシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムでセーヴァーをささげていました。それは、美しい秋の日でした。昼食後、私は自分の部屋に戻って休みました。午後1時を過ぎた頃、胸に非常に鋭い痛みを感じました。「心臓発作はこんな感じに違いない」とさえ思いました。

休息後、私はセーヴァーを再開するためにアーシュラムに戻りましたが、ロビーで誰かが泣いているのを見ました。その人は瞑想ホールに行ってチャンティングをするように——なぜなら、バーバが体を離れたから——と言いました。その後、ニューヨークとインドの時差を計算すると、私が胸に痛みを感じた頃は、バーバがマハーサマーディを遂げたインドの時間にとっても近いと分かりました。

私はバーバが——私の胸の中で直接——知らせてくれたのだと「知って」いました。そして、バーバがそこから離れたことは全くありません。

米国メイン州



1982年10月2日の満月の夜、バーバがマハーサマーディを遂げた時、私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥにいました。その後、グルマーイが皆に話をした時、彼女が大きな愛をもって私を見詰めると、私は胸に突然、強いエネルギーが入って来るのを感じました。私は少し後ろによ

ろけて、そして私の心は溶けました。エネルギーに満たされてそこに立っていると、「大丈夫、私は大丈夫。バーバはいなくなったけれど、すべて大丈夫。私たちは皆大丈夫」という声が、自分の中に湧き上がってきました。私は、完全に守られていると感じました。そして、私たちは皆、バーバの保護の下にあると感じました。

2日後、中庭に足を踏み入れた時、私の視線はバーバの席に向かいました。私はあっけにとられて、その場に立ち尽くしました。バーバが中庭を通り抜けて自分の住まいの方へ歩いていたのです。私に背中を向けていましたが、バーバの姿を見間違えることはありません。彼が席に着いて振り向くと、それはグルマーイだったと分かりました。私は心の中で、バーバに話し掛けました。「あなたはどこにも行っていませんよね？」

バーバは、今も私と一緒にいます。私たち全員と一緒にいます。そして、私は今も折に触れて、バーバに会うのです。

オーストラリア、バッセルトン



1982年10月3日、地元のシッダ・ヨーガ瞑想センターでは定期的なサツァングが行われました。私たちはまだバーバのマハーサマーディのことは聞いていませんでしたが、私はサツァングの間、いつものような喜びを感じていないことに気づいていました。サツァングの後、バーバの逝去のニュースが午後5時30分頃にオール・インディア・ラジオで放送されたと、一人が私たちに教えました。私たちはすぐにガネーシュプリーに向けて出発し、午前7時頃にアーシュラムに到着しました。

グルデーヴ・シッダ・ピートウに入ると、私はアーシュラム全体が瞑想状態にあると感じました。周囲を取り巻くもの全体が神聖な振動で満たされ、私は自分がありとあらゆる粒子の中にシャ

クティを体験していると感じました。ガネーシュプリーのバデ・バーバのサマーディ・シュライン
へ向かうバーバの葬列とすべての埋葬の儀式は、忘れられないものでした。今日でも、私はバ
ーバのシャクティを彼のサマーディ・シュラインで体験します。人間にとって最高の達成の道に、
私を導いてくれたバーバにとっても感謝しています。

インド、ガネーシュプリー



サーダナーに取り組み始めて2年、自宅で毎週行っている「シュリー・グル・ギター」の朗唱
の司会をする準備をしていた時、信奉者の一人が到着し、バーバがマハーサマーディを遂げ
たと私に伝えました。

当時、私はシッダ・ヨーガが自分の道であることを知っていましたが、自分の人生にグルがいる
ことがどういうことなのか、限られた知識と理解しか持っていませんでした。けれども、その瞬間、
私は最も壊滅的な喪失感を体験したのです。

「シュリー・グル・ギター」の教典を朗唱していると、私の中に空虚な感覚が広がっていきまし
た。この空虚さはあまりに膨大でした！ まるで母、父、兄弟、伴侶、親友、その他を失ったか
のようでした。すると、その空っぽな空間が、最も広大な、あまねく広がる愛——始まりも終わり
もない愛——で満たされ始めました。疑いもなく、私からバーバが失われることはないを知りま
した。彼の逝去によって、自分の存在の中で体験している愛の海の中で、彼の存在に永遠に
つながることができたのです。

英国ウェストモールギー



1982年10月2日の満月の日、私はシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムでグルセーヴァーをささげていました。その晩、一人で外に座っていると、その夜の月が並外れて大きく輝いていることに気づきました。そこに座って月を見詰めていると、信じられないような、無類の、愛あふれるシャクティの波が、次から次へと押し寄せてくるのを体験し始めました。それは浜辺に打ち寄せる穏やかな海の波のようで、それぞれの波が最高の優しさと、最高の愛に満ちたエネルギーを運んでいました。それは純粋な愛のように感じられ、私は疑いなくそれがバーバだと分かりました。この体験は、私をバーバへの深い献身と愛の境地に置き、それはますます強くなっていきました。

やがて、私はアーシュラムに戻りました。そこで目に入ったすべての人が、全く違うように見えました。私がそのことを最初に尋ねた人は、こう答えました。「聞いていないのですか？ バーバがマハーサーディを遂げたのです！」驚いたことに、私はこのニュースに全く動揺しませんでした。私はまだ、あの愛に満ちたシャクティの波に完全に包まれていました。このバーバの愛の体験は、しばらくの間私の中にとどまり、バーバがまだ私と共にいると確信を与えました。

米国カリフォルニア州



1982年10月2日の満月の夜、私はサツアングのために、パリ(サントウアン)のシッダ・ヨーガ・アーシュラムにいました。ちょうど帰宅した時、アーシュラムのマネジャーから電話がかかってきました。彼は私に、バーバが自分の体を去ったと話し、アーシュラムでチャンティングが始まったことを知らせました。私のマインドは真っ白になってしまい、すぐにアーシュラムに戻りました。

私の記憶では、パリのいろいろな場所のシッダ・ヨーガ瞑想センターで、チャンティングが1か月間、毎日のように行われ、止むことはありませんでした。チャンティングの中にバーバの存在

を感じていたので、私は悲しい気持ちにはなりませんでした。それはこの時期を乗り越える助けになりました。

それ以来、私の人生とサーダナーは続いています。バーバはいつも私の心の中にいます。私にシャクティパートを与えてくれたバーバに、とても感謝しています。その時以来のグルマーイの導きと見守りに、とても感謝しています。

フランス、ノワジエル



私は 1978 年にオークランドでバーバと出会い、その直後に幸運にも彼の3回目のワールドツアーに参加しました。それから数年間、私はバーバが大いなる自己について非常に美しく語るのを聞きましたが、私は大いなる自己を体験したと感じたことも、バーバが語っていることを深く理解したと感じたこともありませんでした。

そして、1982 年 10 月2日の満月の夜、バーバがマハーサーマーディを遂げた時、私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥにいて、そこでセーヴァーをささげていました。翌朝早く、グルマーイはアーシュラムにいた私たち全員に話しました。グルマーイは、バーバは私たちから去ったのではなく、私たち一人一人の心に永遠に入ったと話すよう、バーバが彼女に頼んだと言いました。それを聞いた途端、私は最高に美しくきらめくエネルギーと優しい愛で心が満たされるのを感じました。その瞬間、私はこのエネルギーが、バーバと私自身の内なる大いなる自己であることを知ったのです。

この体験が私から去ることはありません。親愛なるバーバ、ありがとうございます。

米国カリフォルニア州



バーバのマハーサマーディの数週間後、自閉症の息子が私の手を取り、彼の部屋に掛けられているグルマーイの写真まで私を連れて行きました。彼は指さして言いました。「バーバ！」私は彼に、「いいえ、あれはバーバではないの。グルマーイよ」と説明しました。このような日常が2年間続き、私は辛抱強く、誰が誰なのかを彼に説明しようとしてきました。

するとある日、いつものように、彼はグルマーイを指さして、「バーバ！」と言いました。突然、ベールが剥がれました。「そう！」と、私は目に涙を浮かべて叫びました、「あれはバーバ！」私がようやく理解できたことに満足して、彼は二度とこのことを口にしませんでした。

米国カリフォルニア州



バーバのマハーサマーディの知らせを電話で受けた時、私の世界は突然変わりました。バーバはいつも私のそばにいてくれたと感じていました。バジャンの「グルデーヴァ・ハマラー・ピヤーラー」が述べているように、私のグルは人生を支えていたのです。「さあ、どうしようか」と、疑問に思いました。私は孤独を感じました。

その時、私は内側の声を聞きました。「あなたはもう一人前の男だ。何をすべきか分かるだろう」。この確約の力強さが私の一部になるのを感じ、バーバが私に必要なものを与えてくれたのだと思いました。

米国カリフォルニア州



1982年10月、私はテキサス州に住んでいました。バーバがマハーサマーディを遂げた前夜、私はバーバを恋しく思い、彼と共にいたいと切望していました。バーバが与えてくれた彼の帽

子を、私は一晩中胸に抱いていました。翌日、その知らせを聞いた時、私はとても大きな悲しみを感じました。私はチャンティングのために瞑想ホールへ行き、2日間そこにとどまりました。2日後、ある人が私にお菓子を手渡しました。それはバーバとの最後のダルシャンで、彼が私に与えてくれたものと完全に同じものだったのです。私は、バーバがそれを与えてくれ、また、私が再び普段の生活を取り戻す時が来たと告げているように感じました。

米国フロリダ州



1982年10月2日の満月の夜、私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥでセーヴァーをささげていました。「死とは何か」と自問する必要は、それまで一度もありませんでした。けれども、バーバの最後のダルシャンを受けるために彼の部屋に行き、彼に近づいた時、その疑問は私のマインドの中心にありました。彼を見ると、「彼は死んでいない——生きている！」という気づきが、マインドの中に湧き起こりました。

驚いたことに、彼の部屋から出てきた時、バーバが愛情を込めて私に話し掛けるのが心の中で聞こえ始めました。そして、グルデーヴ・シッダ・ピートゥの庭を歩いていると、至る所にバーバがいて、彼は永遠に彼の神殿と私の心の中に住んでいることが、はっきりと分かりました。

フランス、ロデーズ



1982年10月2日の満月の日、私は早朝に目を覚ますと、すぐにオークランドのシッダ・ヨーガ・アーシュラムに行つて「シュリー・グル・ギター」を朗唱することを考え始めました。その時、子どもたちは親戚を訪ねていて不在でした。アーシュラムに引き寄せられる磁石のようなその強い力を感じてはいましたが、そんなに早い時間に家を離れないと決めました。代わりに、翌日子どもたちが帰って来るの見込んで、幾つかの家事をこなし始めました。

時間がたつと、スローミ・ムクターナダがマハーサマーディを遂げたことを友人が電話で知らせてくれました。私はすぐにアーシュラムに向かうことができ、何日も続くバーバをたたえるチャレンジングに参加できたことは、とても幸運だと感じました。

その日から今に至るまで、私がバーバの本を読んだり、シッダ・ヨーガのコースを受講する時はいつでも、彼は夢の中やプージャの上で、私と共にいます。彼は、母や祖母としての私の役割を導いています。バーバの導きのおかげで、私は落ち着きと強さをもって、この世界で機能し、自分の責務を成し遂げることができるのです。

米国カリフォルニア州



満月の夜に空を見上げるたびに、バーバが 1982 年にマハーサマーディを遂げた夜のことを思い出します。その夜、グルデーヴ・シッダ・ピートゥの自分の部屋で眠りに就く前に、満月を見詰めていました。真夜中に、誰かが私のドアをたたいて言いました。「バーバがマハーサマーディを遂げました！ ダルシャンのために彼の部屋に来てください」

バーバは前の夜に、何人かのオフィス・セヴァイトを集め、私たち全員と一緒に働くべきだと話していたので、彼がマハーサマーディを遂げる正確な日時を知っていたと私は信じています。その時の式典のことは、今でも覚えています。私がグルデーヴ・シッダ・ピートゥを去ってから 30 年がたちましたが、私の心はグルと共にあります。

米国ニューヨーク州



1982年10月2日、満月の日、家族とオークランドに住んでいた時、友人からバーバがマハーサーマーディを遂げたという電話を受け取りました。私はがくぜんとして泣き始めました。私はバーバからたくさんのもを受け取っていたので、私は大丈夫だと分かっていた。しかし、重度の障害を持つ私の幼い息子は、バーバを愛し、彼を身近に感じていました。私は夫に、「あの子はどうかしら？」と尋ねました。

その時、前夜に、グルデーヴ・シッダ・ピートウにいる夢を見ていたことを思い出しました。ある場面で、中庭を歩いているグルマーイを窓から眺めていました。彼女は振り向き、「彼は元気ですか？」と、私の息子について尋ねました。私は彼女が尋ねてきたことに驚きました——まさにバーバがしてきたように。

私は、「まあまあです」というような返事をしました。グルマーイは私を見て言いました。「心配しないで。彼はもう、私が預かっています」。彼女がそう言うのは奇妙だと思いました。なぜなら、いつも彼の面倒を見てくれたのはバーバだったからです。でも、その次の日の午後に夢を思い出した時、私は理解しました。それは途方もない慰めだったのです。

米国カリフォルニア州



1982年10月2日の満月の夜の早朝、マンハッタンのシッダ・ヨーガ・アーシュラムに滞在中のスワミから電話があり、バーバがマハーサーマーディを遂げたと知らせてくれました。最初は喪失感を感じましたが、時間がたつにつれて、私のマインドはバーバに絶えず集中するように引き寄せられていき、それは私に心の中の平和と愛の感覚を与えてくれました。

アーシュラムで1か月にわたるチャンティングがあると聞いた時、私は45分以上離れた所に住んでいましたが、毎晩、そこにいるようにしました。私たちが「オーム・ナモー・バガヴァター・ム

クターナnderヤ」をチャンティングしている時、私はそれがこの上なく素晴らしいチャンティングであることが分かりました！

その体験は永遠に私の心とマインドの中にとり続けるでしょう。その年から毎年 10 月、バーバの光に同じように集中し、私に最高の平和と愛の感覚をもたらしてくれていると私は感じています。

米国フロリダ州



1982 年 10 月 2 日の満月の夜、私は大学生のグループを率いて、森や野原を抜けて、最終目的地である地元の修道院までの徹夜の精神的な巡礼をしていました。私たちは夜遅くから午前 6 時に修道院に到着するまで歩きました。嬉しいことに、静かに祈りながら歩いている間、早朝の時間帯に空にたくさんの流れ星が見えました。

バーバが亡くなったことを知ったのは、その日遅くに家に帰った時のことでした。私の家族は皆、シッダ・ヨーガの生徒であろうとなかろうと泣いていました。深い悲しみの真ただ中であって、私はまた、バーバの偉大な融合の神聖な時間に、目を覚ましていて、自然の中で、祈りに没頭していたことに、深い感謝の念も感じました。

私はバーバからの祝福された贈り物としてその夜を体験しました。そして、私たちが見た流れ星は、バーバの壮大で神聖な人生を祝い、たたえるためだったのだと信じています！

米国ニューヨーク州



バーバがマハーサマーディを遂げてから数日後、私は彼のサマーディ・シュラインに入りました。私はバーバが埋葬された土の塚のできるだけ近くに座りました。とても悲しい気持ちになりましたが、同時に、そこにいられて嬉しく感じました。

しばらくすると、目の前に金色の脚が見えました！ ゆっくりと私は見上げました。バーバが私の目の前で、彼がよく取っていた姿勢で、片方の膝をもう片方の膝の上に高く上げて組み、椅子に座っていました。

私はぼうぜんとなりました。私は非常に打ち解けたふうになりに話し掛けました。「でもバーバ、あなたは死んでいますよ！」バーバは私を見て腕を伸ばし、私を指さして私の名前を言いました。彼はあまりにも大笑いしていたので、腕全体が揺れていました。彼の全存在が光と強烈な喜びを放ちました。

私は抗議しました。「少しも笑うことではありません！ 私をまた一人にしてしまいましたね！」

バーバは深い優しさと思いを込めて笑い続けました。そして、私は彼が本当に私と、そして彼のすべての弟子たちと、一緒にいることを理解したのです。

フランス、ブルターニュ地方のカラク



1982年、私はシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムに住んでいました。10月2日の午後、私たちはバガヴァーン・ニッティヤーナンダのムールティが祭られているホールに召喚されて、バーバがマハーサマーディを遂げたと告げられました。誰もががくぜんとなりました。チャンティング——ジンジョーティー・ラーガの「オーム・ナモー・バガヴァター・ニッティヤーナンダーヤ」——

が始まり、2週間止むことなく続きました。ある時点で、言葉は「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナダーヤ」に変わりました。まさに初めて、私たちはバーバの名前だけをチャンティングしました。

チャンティングはアーシュラムに浸透しました。シャクティは計り知れないほどでした。バーバの住まいが開放され、アーシュラムに住んでいた人たちは昼も夜もそこで瞑想しました。私は部屋の一つに座って、圧倒的な悲しみと最高の恍惚(こうこつ)の二つの感情で同時に満たされました。

私がバーバの旅立ちの現実を理解しようとしている間、グルマーイの慰めの言葉がグルデーヴ・シッダ・ピートゥから絶えず伝えられました。彼女の言葉に込められた力と思いやりによって、バーバが、この地上での私の残りの旅の間、私を導くために信頼できる存在に私たちの世話を預けたのだということを、私は確信しました。

米国ニューヨーク州



1982年10月2日の満月の夜、バーバがマハーサーマーディを遂げた時、私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥにいました。その夜、誰かが私が滞在していた大部屋に来て、バーバが病気になったので、皆 temple に行ってチャンティングすべきだと告げました。

私たち数人が temple に着いた時、そこは既に満員でした。そこで、私たちはバーバの住まいの外の中庭に行って、チャンティングしました。それから間もなく、一人の男性がバーバの住まいから出て来ました。私は彼に何が起きているのか尋ねました。彼は、「バーバはマハーサーマーディを遂げました！」と答えました。ショックを受けて、私は座って泣き始めました。

すると突然、一人の女性がバーバの住まいのドアを開けて、中に入るように私たちに手を振ってくれました。私はバーバの体の前に座りました。彼の目は少し開いていて、彼が生きっていると私は感じました。私は自分の内側の声を聞き始め、それは、「グルは肉体ではありません。グルは肉体ではありません」と何度も何度も言っていました。

この最後のダルシャンとバーバからの教えをいただき、とても祝福されたと感じました。

米国フロリダ州



バーバのマハーサマーディの1週間前、私はグランドピアノのあるホールにいる夢を見ました。夢の中で、バーバがやって来てベンチに座ります。私はピアノが音を鳴らすのを聞き、音楽が無言で私の心に語り掛けます。音を通して、バーバは私に彼が去ろうとしていることを告げます。泣きながら、私は彼なしでは生きていけないと彼に言います。演奏は続き、もう一度音楽を通して、バーバは私に、私はいつも音楽の中に彼を見つけると伝えるのです。

1週間後、私はバルセロナのシッダ・ヨーガ・アーシュラムの瞑想ホールで、ニャーネーシュワル・マハーラージについての演劇のリハーサルをしていましたが、その時、スワームが入って来てバーバがマハーサマーディを遂げたと告げました。それを聞いた時、私はまるであらゆるものから隔てられ、時間を超越した広大な空間に浮かんでいるように感じました。

私にとってただ一つ意味があると思われたのは、マントラをチャンティングしてその助けを得ることでした。ハーモニウムの所に行き、私は「オーム・ナマー・シヴァーヤ」を演奏し始めました。ゆっくりと、ホールの全員が加わりました。その後、私たちは、世界中のシッダ・ヨーガ・アーシ

ユラムと瞑想センターが「オーム・ナモー・バガヴァテー・ムクターナンダーヤ」を途切れることなくチャンティングしていたことを知りました。

私は、バーバが夢を通して私に、チャンティングを通していつでも彼と一緒にいられると告げに来てくださったことに、とても感謝しました。

米国ニューヨーク州



1982年、私はグルデーヴ・シッダ・ピートウの牛舎でセーヴァーをささげていました。バーバは毎日、朝と夕方にウシに餌をやり、ブラッシングするために訪れました。マハーサマーディを遂げる前の最後の晩、バーバは早くやって来ました。彼は数頭のウシに餌をやり、他のウシたちは元気かと尋ねました。

1982年10月2日の満月の夜、友人がやって来て、バーバがマハーサマーディを遂げたと私に言いました。私はがくぜんとしましたが、すぐに立ち上がって牛舎に行きました。他の誰かがウシの乳を搾っている間、私は黙って掃除をしました。仕事が終わると、私は牛乳をキッチンに持って行くために夜の闇の中に歩いて出て行きました。私は明るい満月を見上げて泣き始めました。キッチンに近づくと、涙は止まり、牛乳缶を空けるために中に入りました。牛舎の方へ戻り始めると、また涙が流れ始めました。牛舎に着くと、涙は止まり、もう終わった、もう泣く必要がなくなると感じました。

私は浮き浮きし、生気がみなぎり、幸せな気持ちになりました。私はバーバが彼の愛に満ちた存在で私を包み込むのを感じたのです。

オーストラリア、パース



何と忘れられない日でしょう。私は、バーバがマハーサマーディを遂げたこと、そしてチャンティングのために皆が地元のシッダ・ヨーガ瞑想センターに集まっているというメッセージを伝える電話を受けました。この情報を理解した時、私のマインドは静まり返りました。センターに向けて出発する準備をしている間も、そしてセンターに到着した時も、私のマインドはしんとしたままでした。センターの空気そのものが静まっていて、シャクティは触れられそうな力でした。センターにいた人々は、愛と感謝の静かなつながりを込めてお互いにあいさつしました。

私たちが「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」をチャンティングしていると、私は音節の中に没頭し、バーバの存在と愛の深い感覚が私の中にますます広がりました。

私のマインドの片隅が、「なぜ私は絶望して泣かないのだろうか？ 悲しみはどこにあるの？」と思っていました。

とてもあり得ないように思われましたが、悲しみの代わりに、私はバーバの愛に信じられないほど満ちあふれていると感じ、バーバが起こると言ったことは真実であることに気づきました——彼は体を去りましたが、彼は彼の弟子たちの心に完全に入り込んでいたのです。

米国アリゾナ州



1982年10月2日の満月の夜、バーバがマハーサマーディを遂げた時、私は6月からグルデーヴ・シッダ・ピートゥに住んでいました。最初は大きなショックと悲しみを感じました。私のバーバは去り、物理的に彼と一緒にいないという考えは苦痛でした。彼の神聖な姿は私にとって何と貴いものだったことでしょうか！

しかし、彼の名前の絶え間ないチャンティングがアーシュラムを満たすにつれて、手で触れられるような彼のシャクティの感覚も満ちていきました。幸福が空気を満たし始めました。私たちは悲しみを超えて支えられていました——彼の愛に抱かれ、彼が私たちと共にそこにいると感じていました。信奉者たちが近くからそして遠くからやって来ると、彼らもこの愛に没頭するにつれて、彼らの悲しむ表情が穏やかな満足感に変わるのが分かりました。

私にとっての絶頂は、ある早朝の時間帯にバーバの遺体を見守るように頼まれた時のことでした。私とバーバだけの時間でした。ある時点で、バーバがそこにいて、彼の体のすぐ上に浮かんで、無言の言葉で私に知らせているように見えました。「ほら、私はここにいる。私は一度も去ってはいないのだ」

米国ワシントン州



1982年10月1日、私は「シュリー・グル・ギター」の後、グルデーヴ・シッダ・ピートゥの屋上に上がったところ、夜明けが近づいてくると、アーシュラム周辺のタンサ溪谷全体が、今まで見たことのない最も驚くべき紫色のかすみに変わりました。この最も美しい夜明けが、この地球上でのバーバの最後の日になるとは思いも寄りませんでした。

10月2日の早朝、誰かが私のドアをノックし、バーバがマハーサマーディを遂げたと言いました。私は瞑想ホールに行きましたが、そこでは彼らは既に埋葬の準備をしていました。その後、私たちは皆、バーバの住まいに招かれました。私は非常に長い間そこに座り、自分の内側の完全な平和を感じました。数日後バーバは、かつての瞑想ホール、現在のサマーディ・シュラインに埋葬されました。当時を表現するなら、それは、悲しみから歓喜までだと思います。私は

バーバが去ったとは感じませんでした。私は自分の内側にバーバのより強い存在を感じ、まさに今に至るまでそれを体験しています。

米国ニューヨーク州



1982年10月2日のあの日を、私は決して忘れません。兄がシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムから私に電話して、そのニュースを教えてくださいました。私の家族も一緒にいましたが、私たちはただそこに座って、私たちが今聞いたことにごくぜんとし、何をすべきか、この情報をどのように飲み込んだらいいのかも分かりませんでした。

その時、ドアをノックする音がしました。開けると、若いインド人男性が立っていました。その人はヴェーダの本のセットを戸別訪問で販売していました。私の目は涙であふれ、私は彼に私たちの最愛のグルがマハーサーマディを遂げたばかりだと伝えました。彼は深い思いやりで私を見て、入ってよいかと尋ねました。

彼は私たちのハーモニウムの前に座り、私たちを慰めるために祈りの賛歌を歌い、演奏し始めました。彼は賛歌の一つの意味を翻訳し、偉大な存在が彼の体を離れる時、彼は本当にいなくなるのではなく、彼のすべての信奉者の心の中に入るのだと伝えてくれました。彼の言葉は本当に痛みを和らげ、優しさに満ちていました！

私は以前もそれ以降も、ヴェーダの戸別訪問販売について聞いたことがありません。これは本当にバーバからの贈り物で、嘆きの中にいる私たちを助け、彼への強い切望を和らげる助けとなりました。

米国カリフォルニア州



マハーサマーディを遂げる数カ月前、バーバが常にアーシュラムの敷地内に出掛けて人々と交流しているのを見ることができました。彼はマネジャーと話したり、ダルシヤンを授けたり、子どもたちと一緒にゴルフカートに乗ったりしていました。

夕方には、バーバはケーブと呼ばれた瞑想ホールを訪れ、そこで瞑想していた人々を彼のシヤクティで祝福しました。

最後の数カ月間、バーバがこれほどまでに完全に自分をささげるのを見て、畏敬の念が湧き上がりました。私には、バーバには無駄にする時間がなく、残された時間をでき得る限り自分自身を与えるために使っていたように感じました。

米国テキサス州



1981年の秋、メキシコ市のアーシュラムで、私はバーバ・ムクターナンダが亡くなった夢を見ました。私は涙を流しながら目を覚まし、今まで体験したことのない信じ難い喪失の痛みを感じました。その日、バーバと一緒にいるためにインドに行こうと決めました。私は1982年3月に到着しました。

10月2日の満月の夜、私は夕方のチャンティングに行きました。バガヴァーン・ニッティヤーナンダが自分の体を去った日を思い出すバーバの動画が上映されました。バーバは暗い中で住まいの外に座っていました。私は部屋に戻りながら、月を見詰めて長い間立ち止まりました。心を奪われ、大きな満足を感じました。

その夜、私はバーバがマハーサマーディを遂げたことを知りました。私は何時間も泣き続け、

彼の死去の知らせが広まり、何百人もの人々が敬意を表しに来ました。アーシュラムは1カ月にわたるチャンティングを行い、私はそれで救われました。私は、バーバが私の中にともした驚くほどのシャクティが、まだ私と一緒に在り、私を導いていることに気づいたのです。そして今、グルマーイと共に在って、私は知識と成熟度において成長し続けています。

米国ニューヨーク州



バーバがマハーサマーディを迎える日の午後、グル・チョークでのバーバのダルシャンが発表された時、私は中庭に放送されたシタールの1本の開放弦が出す最も大きく並外れた音に驚きました。私にとって、それはダルシャンへの召集命令でした。私がバーバに近づき、彼の前に立つと——それが最後の機会になったのですが——バーバは、それまでに私が受け取った中で最も温かく、最も愛情深く、最も受け入れられ、最も親しみのこもった笑顔と、それまでに聞いた中で最も美しく深い歓迎の声を私に与えてくれました。バーバから伝わる愛はとても強く、私は膝が崩れて、バーバの椅子のすぐ隣で座り込んでしまいました。ただその瞬間だけだとしても——ホールモニターが私に動くよう促すまで——私はバーバの知識と愛に溶けていました。

この体験は、長年の間ずっと私の心に残っています。分離や限界を感じる時はいつも、その瞬間を思い出します。私は並外れた回復を感じ、この偉大な存在の面前にいることへの感謝の気持ちは、永遠に新たになるのです。

米国フロリダ州



1982年8月、私はガネーシュプリーで5日間過ごし、初めてバーバに会いました。当時、私はグルについて何も知らなかったのですが、その5日間で、バーバは本当に特別な人で、私の体験をはるかに超えた知識と力にアクセスできる人物だと分かりました。

10月2日の満月の夜、パリのスタジオで働いていた時、私は突然、巨大な愛の波が私に降り注ぎ、私を完全に満たすのを感じました。その瞬間、私はバーバが私の心に——永遠に——自分自身を定着させたことを、完全な確信をもって感じました。私は彼が私のグルに間違いないと考えました。後に、パリのシッダ・ヨーガ瞑想センターで、私はあの日にバーバが自分の体を去ったことを知りました。何という祝福でしょう！

今日、私は、当時シッダの人生と偉大さについて本当に無知だった人間に対するグルの思いやりを思い出します。今日、私はバーバに頭を下げ、彼の人生、彼の贈り物を、計り知れない感謝の気持ちで祝います。私はグルマーイの存在と教えを通して、私の人生の中心となった彼の愛と彼の遺産に頭を下げます。

カナダ、ケベック州サットン



1982年10月の満月の夜、私はヒューストンのシッダ・ヨーガ・アーシュラムに住んでいました。彼のマハーサーマーディの知らせを受けた時、私は悲しみに打ちひしがれました。前夜、私はバーバを恋しく思い、彼と一緒にいたいと切望していました。私は瞑想ホールに行ってチャンティングをし、そして2日間そこを離れることができず、眠ることも食べることもできませんでした。ホールでチャンティングをしていると自分がバーバの体の中にいるように感じました。

その後、私の愛する妹が、私にインドへの航空券を送ってくれました。グルデーヴ・シッダ・ピートゥに着いた時、強力なシャクティが大気中に広がっていました。信奉者たちの愛と思い

やりの絆は非常に強いものでした。私たちは愛するバーバを亡くしましたが、彼を失ったわけではありませんでした。彼の存在は手に取るように分かる真実のもので、私たちが呼吸する空気や肌に浴びる太陽よりも紛れもないものでした。バーバはあの時も、今も——そして、これからも——私たちと共にいるのです。

米国フロリダ州



1982年の秋、私はインドでバーバ・ムクターナンダと9か月間過ごした後、6か月間ロサンゼルスに住んでいました。私はバーバとアーシュラムの生活が恋しくてたまりませんでした。

10月2日の満月の早朝、私はバーバがマハーサーマーディを遂げたことを知り、30日間のチャンティング・サブタが行われているサンタモニカのシッダ・ヨーガ・アーシュラムにすぐに向かいました。その月、私は幾晩もセヴァーをささげ、サブタでチャンティングをしました。神聖なエネルギーは手に触れられるようで、アーシュラムを楽園に変えました。バーバの愛は完全に存在していて、彼は私たちとまさに一緒にチャンティングしていました。

3週目までに、私の魂は精神的な探究に完全にささげた人生を生きたいという強い切望に駆られていました。そこで、アーシュラムのスタッフの募集に応募しました。私がシャクティパートを受け取ってから3周年の日、私は常勤のスタッフとして受け入れられました！ バーバからの愛に満ちた贈り物は私の最奥の祈りへの答えであり、精神的な旅に集中し、グルマーイの導きとダルシャンを受ける貴重な機会だったのです。

米国カリフォルニア州



1982年10月1日、私は仕事から帰宅し、車を私有車道に止めました。その晩遅くに用事でここに戻った時、たちまち私は昇る月にあぜんとしてくぎ付けになりました。それは今まで見た中で最も大きく、最も明るく、最も魅惑的な満月だったので、私は思わずひざまずいて、プラナムをささげました。

翌朝、10月2日早朝、私はバーバがマハーサマーディを遂げたと聞きました。その時、なぜあの月があんなに大きな影響を与えるものだったのかが分かりました。自然は、この並外れた出来事——偉大な存在と普遍の大いなる意識の融合——を認めていたのです。

私はバーバの輝かしい生涯と、彼が本当に惜しみなく寛大に与えたシャクティパートという掛け替えのない贈り物に、とても感謝しています。

米国ニューヨーク州



1982年10月2日の満月の夜、私たちは週に1度のサツァングを両親の家で行っていました。チャンティングの最中、何かが落ちる音が聞こえました。目を開けると、バーバの写真が壁から床に落ちているのが見えました。一人がそれを拾い上げ、後ろのプージャーに置きました。その後、私たちは最も恍惚(こうこつ)としたチャンティングと瞑想を楽しみました。

私たちは当時、瞑想の後にサツァングの間の体験を分かち合っていました。私の父は、瞑想中に外で雨が降り始めるのを聞き、雨滴が落ちるたびに、オーム・ナマー・シヴァーヤの音が聞こえたと話しました。私は驚いて、これが最も特別で珍しいサツァングであることに気づきました。

その晩遅く、センターのコーディネーターが電話をかけてきて、バーバがマハーサマーディを

遂げたと告げました。最初、私は悲しみに打ちひしがれました。しかしよく考えてみると、あのサツアングが行われていた頃に、バーバはマハーサマーディを遂げたのだと気づきました。私たちは皆、あのような力強い形で彼の存在を感じたのであり、私はバーバの尽きることのない恩恵に、大きな感謝を感じました。

英国ロンドン



1982年10月2日の満月の夜、私は夢を——甘美な夢を——見ながら眠っていました。すると、夢の中に黄金の三角形が現れました。三角形の中には、美しい金色のパードゥカー——グルのサンダル——がありました。

このビジョンに驚嘆していると、電話が鳴り始めました。仕方なく私は夢から目を覚まし、電話を受けました。私の友人が、バーバが数時間前にグルデーヴ・シッダ・ピートゥでマハーサマーディを遂げたと言いました。私は深く心を揺さぶられ、バーバの私への別れの贈り物は、この非常に美しいビジョンが象徴したように、去る時に私の存在の中にバーバ自身を定着させることだったのだと感じました。

私は、バーバがいつも私たちと一緒にいることを知っています。

米国ニューヨーク州



シッダ・ヨーガの道に新しい者として、私は1982年にグルデーヴ・シッダ・ピートゥでセーヴァーをささげていました。バーバがマハーサマーディを遂げる数日前から、私は目を閉じるたびに彼の顔のダルシャンを持ち始めていました。その土曜日の午後、バーバが私たちと過ごした最

後の実際の姿のダルシャンの間、私はホールの後ろに座り、目を閉じて、内側のビジョンで彼を見ていました。私はそのような形で彼と一緒にいることに完全に満足していました。

当時、私は映像係員としてセーヴァーをささげており、バーバがマハーサマーディを遂げた後の夜の私の役割は、映像機器が必要な時はいつも用意することでした。そのために走っていた時、恍惚(こうこつ)感が私を満たしました。それは信じられないほどでした。すると私のマインドが割り込み、「待てよ、おまえは悲しむべきだ。バーバが体から離れたばかりなんだから！」と自分に言いました。代わりに、私は瞬時にバーバは体ではないことを理解しました。彼は私と一緒にいました。彼の愛と存在は、私の内にあったのです。

米国カリフォルニア州



1982年10月2日の満月の夜、私はセーヴァーをささげるために自宅からメルボルンのシッダ・ヨーガ・アーシュラムまで道を歩いていました。私は月を見上げました。信じられないほど美しい月でした。私は後にも先にもしたことはなかったのですが、月に祈り始めました。「おお、月よ、数時間後には、あなたはグルデーヴ・シッダ・ピートゥウの中庭に輝くでしょう。どうか私のバーバをよろしく願います」

後にこの共時性を不思議に思ったものです。翌朝、「シュリー・グル・ギター」が終わると、私たちはバーバがマハーサマーディを遂げたと知らされました。そして、「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」のチャンティングを始めるように言われました。私は弾いていたタンブーラを抱き締め、今度はハーモニウム奏者がハーモニウムを引き継いでくれと頼んできました。いつまでそこにいて演奏するのか全く見当も付きませんでした。それは問題ではありませんでした。私は、このような吉兆の時にバーバとその信奉者たちに奉仕することができて、とても祝福されていると感じていたのです。

14 日間のサプタの間に私が体験した喜びと甘美の深さは、並外れたものでした。悲しみを感じず、ただ美しく甘い至福が深まり、変容し続け、その愛に包み込まれていたのです。

ニュージーランド、オークランド



マサチューセッツ州ケンブリッジに住んでいた 1982 年8月下旬のある日、外を歩いていると、オーム・ナマー・シヴァーヤのマントラが私の内側ではっきりと聞こえ始めました。当時、私は人生の大きな決断を下そうとしていました。私はボストンのシッダ・ヨーガ・アーシュラムにしばらく住むことに決めたのです。

私がアーシュラムに到着してから1週間もたたないうちに、バーバがマハーサマーディを遂げたと聞きました。私をアーシュラムに呼んだのはバーバだったと感じました。私はチャンティングと瞑想にマインドを没頭させました。私はバーバをととても近くに感じるようになりました。チャンティングをしながら、悲しみと痛みの人生の数々が、私の魂から洗い流されるのを感じました。私は半年近く滞在しました。

それ以来、バーバは私の人生を導いてくれていると感じています。私への彼の愛を感じています！

米国マサチューセッツ州



1982 年 10 月2日の満月の日、私の大学のキャンパスは壮観な秋の日でした。木々の間から太陽が差し込み、キャンパスは他のみんながフットボールの試合に行っていたので、ほとんど空っぽでした。友人と私は芝生に座って美しい平和な日を楽しみ、そして私は陽気に彼女に

バーバのすべてを話していました。数人の学生が私たちの方に来ました。私は彼らと一緒に座るようにと歓迎し、彼らにもバーバについて話し始めたのです！

その日、バーバについてたくさん話した後、私はその夜、地元のシッダ・ヨーガ瞑想センターでのサツァングに参加することに決めました。私が到着した時、チャンティングがすでに始まっていた。私は遅刻したのかと尋ねました。ホストは答えました。「ああ、聞いていないのですか？ バーバは今日、彼の体を離れました」

私は、バーバ自身が私をその夜そこに引き寄せたと感じました、なぜなら、通常はその曜日にはサツァングに出席しなかったからです。バーバの愛がこのように私の面倒を見てくれたことに深く感謝しました。

米国カリフォルニア州



1982年10月2日の満月の夜、私はパーティーに出席していました。バルコニーに出ると、きれいな満月が見えました。私の中で、インドのアーシュラムでバーバと一緒にいたいという強い切望を感じ、涙が流れ出ました。私はパーティーを後にして家に帰りました。

その夜、私はバーバと一緒にグルデーヴ・シッダ・ピートゥにいる夢を見ました。夢の中で私たちは抱き合いました。そして、私は愛に満ちあふれて目を覚ましました。

朝、電話が鳴りました。その人が私に、バーバがマハーサマーディを遂げたと言いました。すぐに私は自分の夢を思い出し、バーバの愛が今、よりはるかに強くなっていることを理解しました。

ドイツ、フェレン



1982年10月2日の満月の日、私はバーバがマハーサマーディを遂げたという電話を受けました。驚くべきことは、悲しみを感じる代わりに、私はとても大きな喜びを感じ、立ち上がって踊ることしかできないほどだったのです。私はぐるぐる回り始め、止めることができませんでした。外に出るのをためらったのは、この喜びを抑えきれず、路上で踊ることになると分かっていたからです！ だから私は家の中にとどまり、バーバの信じられないほどの喜びの至福の中で一日中踊りました。

私はバーバの存在をとっても力強く感じました！

米国フロリダ州



バーバのマハーサマーディの知らせを聞いた時、私は悲しみに打ちひしがれました。自分の均衡を見いだせる唯一の方法はサツァングに参加して、「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」をチャンティングすることだけだと感じ、私はすぐに、ボストンのシッダ・ヨーガ・アーシュラムに車で行きました。私たちはそこで1週間、アーシュラムの非常に強力なシャクティの中でチャンティングしました。

私はそのわずか6年前にバーバに会ったばかりで、私に自分の心とのつながりを与えてくれるのはグルの実際の姿だと信じていました。しかし、その1週間のチャンティングの間に、私は学ぶべきことが他に何かあるかもしれないことを理解し始めました。

多くの涙、そしてバーバの恩恵と愛を通して、私はバーバが彼の体を離れても、大いなる自己

は決して死なないことを学びました。そして、私はいつもバーバの存在を心の中に抱いています。

米国マサチューセッツ州



1982年10月2日の満月の日、私は親愛なる友でありシッダ・ヨーガの生徒である人の家に、彼女が新しいアパートに住み始めるに当たって昼食に招待されました。家具がまだなかったので、私たちは床に座って「ピクニック」をしました。私の友人は素晴らしい料理人で、それぞれの料理を出す時、「バーバはこういうふうに料理されたものが好きなの」とか「これはバーバのビンディ・バージの作り方よ」と言いました。

私は、「あなたはこの昼食をバーバのために作ったと思うので、私は彼に代わってそれを食べられてとても嬉しいわ」と答えました。

その夜、私たちはバーバが夜の間にマハーサーマーディを遂げたと聞きました。私たちには、バーバの数々の人生の集大成と目標、つまりバーバと絶対なる者との融合を祝い、バーバの栄誉をたたえて、昼食の供宴に出席したように思えました。しかし、バーバは「この世を去らなかった」のです。実際、彼はそれ以来ずっと私の人生を導いてくれています。しばしば私が眠りから目覚めたり瞑想から出てきた時に、私のマインドに響く言葉を通して。

英国リトルハンプトン



1982年、私はまだシッダ・ヨーガの道の初心者だったので、できる限りの本を読み、地元のシッダ・ヨーガ瞑想センターに来てチャンティングをしました。私はバーバに直接会ったことはあり

ませんでした。シッダ・ヨーガ・スワミの一人が私たちの地域で特別なプログラムを行った時に、マントラからシャクティパートの伝授を受けていました。

バーバ・ムクターナンダがマハーサマーディを遂げた日、私は自分の瞑想のための部屋に座っていました。私は瞑想しようと努力していましたが、バーバの写真の前で泣いてお辞儀をすることしかできませんでした。それはすべてとても自然に起こりました。その夜、チャンティングのために瞑想センターに到着するまで、私はバーバが彼の体を去ったことを知りませんでした。しかし、この日の早い時間に瞑想の部屋で座っていた時に、私の中の何かは知っていたのです。

米国ジョージア州



1982年10月2日の満月の夜、私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥに住んでいました。その日の午後、私たちはグル・チョークという中庭で無言のダルシャンをして、その後、眠りに就く前に動画を見ました。午後11時過ぎ、何かが私のそばをすっと通り過ぎたことでベッドの中ですっかり目を覚まし、私は背筋を伸ばして座りました。再び眠りに戻ることはできませんでした。その後、早朝に、私は別のミュージシャンと一緒にバガヴァーン・ニッティヤーナンダ・テンプルに足を踏み入れ、そこで音楽セーヴァーをささげていたので、ハーモニウムを取り出しました。私たちはチャンティングすることにしました。

テンプルの中で、私は「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」の演奏を始め、私たちはチャンティングし始めました。その後、チャンティングはグル・チョークに移り、その後の数日間、ますます恍惚(こうこつ)としたものとなりました。そのチャンティングは1カ月にわたるサブタとなり、何千人もの人々がバーバとの最後のダルシャンのためにアーシュラムにやって来ました。

思い起こすと、あのチャンティングは私たちの多くをバーバの愛の波に乗せ、自分の心の中に——バーバが決して離れず、これからも離れないであろう私たちの心の中に——私たちを定着させたのです。愛するバーバの美しい姿なくして最初の1カ月を過ごすうちに、私にとって彼のシャクティはかつてないほど力強く、存在感を増し、彼は結局どこにも行っていなかったことが分かったのです。

米国カリフォルニア州



1982年10月2日の満月の夜、バーバがマハーサマーディを遂げた時、私はシドニーのシダ・ヨーガ・アーシュラムに住んでいました。私は自分のグルを失ったと思ったので、そのニュースに深い悲しみを覚えました。

私たちは毎日昼間に、「オーム・ナモ・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」をチャンティングしていました。3日目の夜、私は午前3時に目が覚めました。すべてが静かで、誰もが眠っていました。突然、私の心臓はドキドキし始めました。「バーバが、ここにいる！」と思いました。私の体の中のシャクティの振動はとても強かったのです。

その時、バーバの声が聞こえました。それが私の心臓の中で文字通り振動するのを感じました。彼はヒンディー語で話していました。私は、グルマーイが今日行っているように、彼がいつも講話を始める時のあいさつのフレーズであることが分かりました。「皆さまを心より歓迎いたします」。この言葉はしばらく繰り返され、その後終わりました。私はまさにバーバのダルシャンを得たのだと分かりました。

何年かたって、私は、バーバのシャクティを感じて彼の声聞いたこの体験は、グルの霊妙な

形が私の心に入ったことだと理解するようになりました。教典が教えているように、私がグルを失うことはあり得なかったのです。

オーストラリア、カッスルメーン



1982年10月1日金曜日の夜、用事で外出するために玄関のドアを開けた時、私は満月の壮大さにあっけにとられました。それは私がそれまで見た中で最大かつ最も色彩豊かな月でした。空に低く懸かっている、そのオレンジ色は月というよりも夕日を連想させました。

私は実のところ地面に伏して、それにプラナムをささげたのです。プラナムについて事前に考えていたわけではなく、それはただ起こったのでした。

車を走らせていると、私の心は愛と喜びであふれそうになりました。それを表現できる唯一の方法は、私が唯一知っていた月についての歌、「Shine On, Harvest Moon (輝け、中秋の名月)」を歌うことで、走っている間ずっと歌いました。

翌朝、10月2日早朝、電話が鳴り、バーバがマハーサマーディを遂げたと知らされました。私はすぐに、前夜に見た月が、その重大な出来事のしるしだったと悟りました。

米国ニューヨーク州



1982年10月2日の満月の夜、私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥに住んでいました。バーバがマハーサマーディを遂げたと初めて聞いた時、私は信じませんでした。しかし、現在はバーバのサマーディ・シュラインとなっている瞑想室に歩いて行くと、係員が空間を準備しているのが見えました。その時、バーバが自分の体から離れた現実の実感が湧きました。

時がたち、バーバのこの上なく素晴らしい実際の姿がもはやこの地球を飾ることはないという現実を受け入れた時、穏やかで温かい気持ちが私の心を満たし始めました。この気持ちが私の中のバーバの存在であることを確信するようになりました。その時、私はバーバが私と一緒にいて、これからもずっとそうであることに気づいたのです。

メキシコ、サンフェリペ



私が、バーバ・ムクターナダと初めて出会ったのは、1976年の冬、グルデーヴ・シッダ・ピートゥででした。

1982年10月2日の満月の夜、私はサウジアラビアで働いていました。クライスのガス田を歩いていると、シッダ・ヨーガ・スワミたちに囲まれてベッドに横たわっているバーバのビジョンに足を止められました。私は彼ら全員と一緒にそこにいると感じ、それがバーバの旅立ちの時であることが分かりました。私は、彼は自分の体を去ったかもしれないが、本当のバーバであるものは永遠に私たちと共にあることを理解しました。

米国ルイジアナ州



1981年から1982年にかけてグルデーヴ・シッダ・ピートゥでバーバと1年近く過ごした後、私は大学の勉強を終えるためにメイン州に帰りました。1982年10月2日の満月の日、私は岩の上に座って大西洋を見詰めていました。「シュリー・グル・ギター」を朗唱し終えたばかりで、海岸線に打ち寄せる波を見ていると、畏敬の念、愛、感謝の強い気持ちが私を圧倒しました。私は自分の周りのすべてと完全に一体だと感じました。

家に帰ると、バーバがマハーサマーディを遂げたという知らせを受け取りました。これを聞いた時、私は心が広がるのを感じました。もう二度と実際の姿のバーバに会えないと悟った時、悲しみと涙はありましたが、彼はいつもそこにいて私を導き、守ってくれることも知っていました。そして、バーバは既に愛するグルマーイに祝福の海をすべて与えており、このもう一人の偉大なシッダの導き、英知、思いやり、そして愛を、世界に浴びせてからでなくては去らないことは、私には明らかでした。

米国ハワイ州



1982年10月2日の満月の夜、私はソファに座り、バーバ・ムクターナンダの本を読み、シッダ・ヨーガのチャンティングのテープを聴いていました。窓の外を見ると、月が見えました。素晴らしい愛と幸福感が心に目覚めました。

後に電話が鳴った時、私はバーバがマハーサマーディを遂げたことを知りました。月を見て心にたくさんの幸せが流れているのを感じたのとほぼ同じ時間にそれは起こったに違いないと、私は気づきました。

スウェーデン、マルメ



1982年10月、私はカリフォルニア州のオークランドで夫と暮らしていました。ある日、私は瞑想中に部屋にバーバの存在をととても強く感じました。私は彼への愛に圧倒されました。心の中で体験していたこの強力なダルシャンで、私は突然すすり泣き始めました。夫は慌てて部屋に来ると、「どうしたの?」と尋ねました。

私は何とか、「何でもないわ! バーバがここに居るの!!」と言いました。

翌朝、私はバーバがマハーサマーディを遂げたと知りました。その後、私は彼が亡くなった時間を知りました——まさにその時、自分の存在が彼の永遠で完全な愛で満たされるのを体験していたのです。

これに対して、そして私が受け続けている信じられないほどの恩恵の一瞬一瞬に対して、私は永遠に、言葉では言い表せないほど、感謝しています。

米国ワシントン州



私たちは 1983 年 10 月 2 日、地元のチャンティングと瞑想センターでバーバのマハーサマーディの 1 周年を祝いました。その月の後半に、太陰暦のマハーサマーディの記念日を迎えた時、私はそれを覚えていませんでした。

その夜、ベッドでまどろんでいると、頭のとっぺんにまばゆいばかりの白い光が見えました。白い光は急流のように私の頭の中に流れ込み、胸から両腕へと広がって、その力で両腕を持ち上げました。

その時、非常にはっきりと、グルデーヴ・シッダ・ピートウのサマーディ・シュラインの壁にある写真——まだ見たことのない写真——のように、バーバが私の前に現れました。私ははっとして、何の日だったかに気づきました。自分のプージャーに行き、プラナムをささげました——グルが私を覚えていてくださったことに感謝して。

その体験から、私はグルとのつながり、彼の偉大さ、そしてこの道の真理について完全に確信するようになりました。

米国イリノイ州



1982年10月2日の満月の夜、婚約者と私はニューヨーク州のハドソン川溪谷を日帰りで旅した後、車でニューヨーク市に帰る途中でした。それはうっとりするような初秋の夜の一つでした。車を走らせ、二つの丘の谷間を抜けて、満月が昇るのを見ました。

それは最も完璧で、まばゆく、光り輝く月で、上下の雲の輪郭を照らしていました。私は驚きのあまり息をのみました。高速道路の脇に車を止めて、うっとりする光景を目撃しようと、人々は車から外に出て来ました。私は畏敬の念を抱きながら、「こんなに完璧に美しいものは見たことがない」と思いました。

1時間足らずで、私たちはマンハッタンのシッダ・ヨーガ・アーシュラムを訪れて、バーバがマハーサーマーディを遂げたことを知りました。衝撃でした。しかし、私が見たものを思い出すと、深い内なる広がりをも感じました。バーバの最終的な融合で、彼は本当にすべてと一つになったことを理解しました。夜空でさえ、彼の神聖な意識の光を反射していたのです。

米国オハイオ州



1982年10月2日の朝、メルボルンのシッダ・ヨーガ・アーシュラムで行われるシャクティパート・インテンシヴに参加する準備をしていた時、妻はかかってきた電話を取りました。彼女は静かにやって来て、その電話はアーシュラムのセーヴァイトからで、バーバがマハーサーマーディを

遂げたことを私たちに知らせてきた、と言いました。インテンシヴは中止になり、代わりに私たちはバーバの名前をチャンティングしました。

バーバのマハーサマーディの知らせを受けた時、驚くべきことが起こりました。制御できない愛が私を駆け巡り、体毛が逆立ったのです。これほど不思議な状態を体験したことがなかったので、私は言葉もなく妻を見詰めました。

それから私たちは、バーバが自分の体を去る時、彼はあらゆる場所の信奉者の心に入るだろう、と言ったことを思い出しました。私は、これがその瞬間にその場で私に起こっていることだ、と感じました。

その後、私たちが最初に「オーム・ナモ・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」をチャンティングした時、私の目に一粒の涙がきらめきました。それは幸せの涙でした。悲しみに何の意味があるのだろう、と私は思いました。バーバは永遠に私の心に入ったのです。

米国ノースカロライナ州



ある土曜日の午後、バーバがゴルフカートで通り過ぎた時、私はバニヤンの木の下にいました。私は周りのあらゆるもの、木々、葉、ちりの中に彼の顔を見始めました。

その夜、私は口の中の甘い味覚で目を覚ましました。全身が恍惚(こうこつ)感で満たされ、頭頂部に強い振動がありました。私はバーバの存在と愛をととても強く感じていました。私が目を覚ましたまさにその時に、バーバがマハーサマーディを遂げていたことを、翌朝知りました。

メキシコ、クエルナバカ



1982年10月2日の満月の日、私は瞑想をしていて、初めて深い静けさと平和と幸福の空間に入りました。私は愛に包まれているのを感じました。いつも存在していると知ってはいましたが、それまで完全に体験したことがないもの、深く親しみがありながら驚くほど新しいものにつながったと感じました。「ああ、これが瞑想なのだ」と、私は思いました。目を開けると、内側の浄化が起きたように、エネルギーに満ちあふれ、深く生まれ変わったのを感じました。私はとても不思議に思い、夫に話しに行きました——夫は、バーバ・ムクターナンダがマハーサーマーディを遂げたとたった今聞いたところだ、と私に言いました。

どういう訳か、私はインドからは地球の反対側に住んでいたにもかかわらず、バーバのシャクティを直接体験したことを知っていました。バーバの恩恵を通して、自分の大いなる自己の深い体験をしたのです。この体験は私の人生を変えました。その日以来、私は定期的に瞑想をしていて、瞑想は私の人生の基盤となり、内なる強さと静けさの源に私を結び付けています。

英国ウェールズ



サンタ・モニカ・アーシュラムの瞑想ホールはとても静かでした。「オーム・ナモー・バガヴァター・ニッティヤーナンダーヤ」の穏やかなチャンティングだけが空中にゆっくりと流れていました。私は床に座り、瞑想ショールで身を覆い、悲しみと深い愛が強く混じったものでいっぱいになっていました。

チャンティングを始めると、私たちがその名前をチャンティングしているバーバのグルへの、彼の深い愛を思い出しました。涙が頬を伝って流れました。私の心は愛に満ちていました。夜中のある時点で、まるで完璧な合図のように、そして一斉に、部屋の中のすべての信奉者たちが、「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」をととても優しく歌い始めました。それは夜

が更けるにつれて勢いを増し、ついには熱気と愛と平和に満ちた喜びにあふれたチャンティングとなりました。バーバは私たちの心の中にいて、私たちが歌う一音節ごとに私たちを元気づけました。愛に満ち、恩恵に満ちあふれたバーバの言葉が、再び私のマインドに浮かびました。「私はあなたの元を決して離れない」。それはお祝いの最大の理由でした。

米国フロリダ州



バーバが亡くなったとの知らせを受けた時、私はバーバのサマーディ・シュラインに行き、そしてグルマーイに会うために、グルデーヴ・シッダ・ピートウへと旅しました。私はバーバが私の前に現れることを願っていたのですが、アーシュラムの庭でどんなにバーバを探しても、彼は現れませんでした。

その後夫から手紙を受け取り、私の留守中に9歳の息子が病気になり、私の母が息子の世話を手伝っていることを知りました。夫は、母が息子と話していた時、突然息子の顔にバーバの顔が現れたと、言いました。少し圧倒されたように感じて、母は目をそらしました。彼女は3度目をそらし、振り返るたびにバーバはまだそこにいました。それからその情景は消えました。母は私の夫に彼女が見た驚くべき情景を話し、「でも、バーバはあの赤い点を付けていなかったわ」と言い、夫の書斎のバーバの写真を指さしました。

後で知ったのですが、バーバは体を離れる数日前にビンディを付けるのをやめていました。バーバは確かに現れたのです——そして本当に必要とされていた所に。私の母は祝福され、私の熱烈な願いはかなえられたのです。

米国ノースカロライナ州



1982年の秋、私はギリシャのパトモス島に滞在していました。そこでほんの1週間滞在した頃、10月2日の満月の夜に、私は興奮状態で目を覚ました。数日後、アテネのホテルにチェックインした後、私は壁にバーバの写真をテープで貼り、それから英語の新聞を買いました。その後それをちらりと見ると——その紙面は死亡記事のページが偶然開いていて、私の目は10月2日にバーバが亡くなったという短い記事に引き寄せられました。

私は衝撃を受けましたが、自分を落ち着かせるためにチャンティングの本を取り出し、涙を流しながらバーバの写真に向かって「シュリー・グル・ギター」をチャンティングし始めました。たちどころに、私は静けさと幸福感を体験しました。翌朝、アテネの街に出掛けると、私は人々の顔に、建物の正面に、木々の中に、バーバを見ました——バーバは至る所にいて、世界はただ愛だけでした。

米国カリフォルニア州



1982年、私がシッダ・ヨーガの道を歩み始める何年も前に、私は自分の部屋に横たわり、静かにオームを繰り返していました。この音の復唱は、私を深い瞑想へと導きました。瞑想から出て目を開けると、まばゆいばかりの金色の光が私の心から発せられ、私の全身を包み込んでいました。私が触れたものはすべて、この金色の光で満たされ、包まれました。私の本、ノート、ペン、服、椅子——あらゆるものです！ それからその光は部屋中に広がり、ゆっくりと消えていき、喜びと軽やかさの感覚が残りました。

1989年、私はシッダ・ヨーガのサーダナーを始めました。その後、私は、グルがマハーサーマーディを遂げる時、グルは彼の弟子の中に入る、とバーバが説明している本を偶然見つけました。瞑想日記を振り返ってみると、何年も前の私の体験は1982年10月2日——バーバがマハーサーマーディを遂げた日！——に起きていたことが分かりました。

その日、バーバが光の形で私の心に入り込み、数年後に私をグルマールに導いてくれたことに、私はとても感謝しています。

マルティニク、フォールドフランス



1982年10月2日の満月の日、私は田舎の家に行くために都会のアパートを出ました。その日の午後、自然の中を歩いていると、小鳥の大きな群れが渦を巻いてやって来て、私の頭上でさえずりました。私は自然に「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」をチャンティングし始めました。その夜、とても明るい満月を見た時、私はバーバを思い出しました。それから私はベッドに入りました。

真夜中、突然、私の中心部から来ているような大きな声が聞こえました。オーム・ナモー・シヴァーヤを復唱しているバーバの声だと分かりました。私は驚いて立ち上がりました。その時、バーバが私に、「あなたが私と一緒にいたい時はいつでも、ただ神の名を繰り返しなさい」と言うのを聞きました。

私が街に戻った時、「バーバはマハーサマーディを遂げました」という友人からのメモを見つけました。その時、前夜の体験の深い意義と、バーバが愛と慈悲から、この力強く特別な出来事のために、いかに私を準備させてくれたかに気づきました。

私の心の中に永遠に存在するという最も貴重な贈り物をしてくれたバーバに、私はとても感謝しています。

シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムのスタッフ



1982年10月、私は家に帰ると、お気に入りのバーバの写真が床に落ちているのを見つけました。よく見ると、写真を覆っているガラスだけが傷ついていることが分かり、嬉しく思いました。幸いなことに、写真自体は損傷を受けていなかったのです。

その後、私はバーバがマハーサーディを遂げたという電報を受け取りました。私は、バーバが自分の外側の殻だけが去ったこと、そして彼がこれまでと変わらずまだ完全に存在していることを、愛情を込めて私に示してくれたのだと感じました。

オーストラリア、ケアンズ



1982年10月2日の早朝、グルデーヴ・シッダ・ピートウの宿舎の一つから階段を降りていた時、私は雰囲気異常に静かであることに気づきました。オフィスの方へ歩いて行くと、アーシュラムのマネジャーの一人が出てきて、バーバがマハーサーディを遂げたことを告げました。この現実を目の前にして、私のマインドは完全に静止しました。泣き崩れることを予期して、私は近くのホールのスクリーンの後ろに回りました。そこに立っていると、悲しみを感じていないことに驚きました。代わりに、バーバの存在を今までにないほど強く感じ、喜びの波が打ち寄せ始めました。バーバが私の心にいたこと——そしてこれからもそうであること——そして彼の恩恵は私がどこにいても届くことに、私は気づいたのです。

米国ニュージャージー州



1982年10月、私は大学を1年間休学していて、悲しくて、自分の精神や人生の目的から離れてしまっていると感じていました。私は他の学生たちと家をシェアしていて、友人の一人はバーバの写真を飾った小さな瞑想室を持っていました。ある日、私はこの小部屋に座って、ろうそく

をともし、初めて瞑想を試してみました。座ってバーバの写真を見ていると、私の内側で、かつて感じたことのなかった静寂と愛を感じました。私の思考と深い不安は、バーバの目を見ていると消えていくようでした。

数日後、私は地元のシッダ・ヨーガ瞑想センターに友達と初めて行きました。私はそこでの音楽、チャンティング、そしてバーバの講話の動画が大好きになりました。けれど、人々は互いに慰め合っていました。というのは、バーバが数日前にマハーサマーディを遂げたばかりだったからです。実際、まさにその日は、私が友人の部屋で彼の写真を見つけ、初めて瞑想した日でした。

その日、私はシッダ・ヨーガの道を歩み始めました。バーバ、あなたの導きと愛に感謝します。

米国メリーランド州



1982年10月2日の満月の夜、祖母はグルデーヴ・シッダ・ピートゥにいました。祖母は自分の体験を次のような言葉で私に話してくれました。

私はとても悲しい気持ちだったの。バーバと話したいと願っていたのに、バーバはもうそこにはないのだもの。その夜はこの深い悲しみで眠りに就いたわ。真夜中に、私を起こそうと揺さぶるバーバの優しい手を感じたの。バーバは、「私と話そうとしていただろう。何を言いたいのか言ってみよう？ 私はここにいる」と言ったの。私は答えたわ。「あなたが来て、私にダルシヤンを与えてくださった今、私はこれ以上何を望むことができるでしょう？ 私はもうすべてを持っています」

私はグルマーイとバーバに何度も何度もプラナムをささげます！

インド、ドンビブリ



それは 1981 年のシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムでの夏の滞在の最後の日で、私が最初の赤ん坊の息子をベビーカーに乗せてホールの外に立っていると、バーバが私の前を通り過ぎました。バーバは生き生きとして、至福で輝いていました。しかし、私の内側の何かが、私が肉体としての彼に会うのはこれが最後だと分かっていました。私は自然に涙を流していました。

1982 年 10 月 3 日、私は息子が床に座り、クレヨンと紙で絵を描いているのを見ていました。電話が鳴りました。それは、バーバが前日に彼の体を去ったというメッセージを伝えるシッダ・ヨーギからでした。私の心はバーバの存在で満たされ、そして私は、彼が私と共に、私の中に、私自身の愛という形でまさにそこにいると分かったのです。

その瞬間以来、グルは常に私と共にいて、私自身の心の中で直接つながれることを、決して疑ったことはありません。この確信が、家庭人として奉仕の人生をささげる私のサーダナーにおいて、私を安定させ続けています。

グルマーイ、ありがとうございます、そしてバーバ、真に充実した人生のための鍵を、ありがとうございます。

カナダ、トロント



私は 1979 年にバーバと出会い、彼の 3 度目のワールドツアーとグルデーヴ・シッダ・ピートウで、バーバが 1982 年にマハーサマーディを遂げるまでセーヴァーをささげました。その間、夕方のサツァングやシャクティパート・インテンシヴのそれぞれで、バーバが内なる大いなる自己について美しく話すのを聴きましたが、私はバーバが話していたことを体験したことがあるとは思っていませんでした。バーバのマハーサマーディの朝、グルマーイは講話をし、バーバはまさに私たちの心に入りましたと言いました。その瞬間、私は心の中に甘美なシャクティが湧き上

がるのを体験し、それをバーバの存在として認識しました。その体験は、決して私から離れることはありません。

米国カリフォルニア州



1982年10月2日の満月の日、私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥの中庭にいました。私はバーバと一緒にいたいという深い切望を体験していました。ちょうどその時、赤と青の美しいトンボが私の膝の上に止まり、そして自分の内側で声が聞こえました。「この体はつかの間のものである。大いなる自己は永遠である」。私は、大いなる自己に没入したバーバは至る所にいて、永遠に私と一緒にいることに気づきました。この理解は私の内なる強さを増大し、私の愛を開花させました。

フランス、ロデーズ



1982年10月1日の夜、両親と私が歩いていると、母が明るい満月を見上げ、喜んで叫びました。「見てごらん、月の中にバーバの顔が見える！ バーバの顔よ！」彼女の笑い声はこちらに伝染するほどの喜びでこだましました。

翌日、私は車でマイアミのシッダ・ヨーガ瞑想センターに行き、サツァングに参加しました。到着すると、外に大勢の人が立っていることに気づきました。何が起きているのか分かりませんでしたが、バーバがマハーサーマディを遂げたという発表がなされた時、私は自分の両腕が天に向かって伸び、目が涙で満たされるのを感じました。私の内側でバーバが、「私は私の名前になった！ 私は私の名前になった！ 私は私の名前、自由の至福になった！」と言うのが聞こえ、自分が満面の笑みを浮かべているのに気づきました。

米国ニューメキシコ州



1982年、友人と私はメルボルンのアーシュラムで瞑想コースに参加することになっていました。私は内なる平和の体験を楽しみにしていました。それが私が瞑想を学ぶことに引き寄せられた理由だったからです。すると10月のある日、友人が電話をかけてきて、スワーミ・ムクターナンダがマハーサーマーディを遂げたためコースがキャンセルされたと告げました。

私は自分の計画が頓挫したことによりかなり動揺しました。私は、「ムクターナンダ、私は本当にこれをやりたかったのです！」と、独り言を言いながら部屋の中を歩き回りだしました。何度か言って、最後に少し力を込めて足を踏み鳴らしながらそう言った瞬間、手をたたく大きな音が聞こえ、足を組んだ姿勢で座っているヨーギが私の第3の目の領域に現れました。このようにして、私はシャクティパートの伝授を受けました。

米国ニューヨーク州



1982年10月2日の満月の夜、私はカシミール山地でキャンプ旅行をしていました。その夜の月は、私がそれまで見た中で最大の満月でした。それは私を畏怖の念と驚きで満たしました。この月が私の深い切望の成就を約束していると感じました。その夜、私は宇宙との一体感を体験し、一睡もしませんでした。

当時、私はバーバ・ムクターナンダを知りませんでした。5年後、私がシッダ・ヨーガの道の生徒になった時、1982年10月2日はバーバがマハーサーマーディを遂げた夜であることを知りました。

瞑想の中で、私は何度もあの完全に静かな夜に戻っています。それは、もはや過去の一瞬ではなく、私がバーバの存在を知りもしないうちから、バーバは私と一緒にいたという、時を超えた時間なのです。



1982年の秋、私はシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムでセーヴァーをささげていました。ある晩の夕食後、私は新鮮な空気を吸いに外に出ることにしました。私は一人きりで、アーシュラムを見下ろす丘の中腹まで歩いて行きました。そこに座っていると、素晴らしい愛のエネルギーの波が次から次へと押し寄せるのを感じました。私はそれがバーバだと分かりました。その体験は広がり続け、私は本当にバーバに愛されていると感じている境地に浸りました。その夜、月は特に大きく満ちていて、とても明るく輝いていました。

やがて、私はアーシュラムの方に戻りました。するとすぐ、何かが非常に違うのを感じました。そして、バーバがマハーサマーディを遂げたことを知りました。そのニュースは衝撃的でしたが、私が感じていた体験は私をシャクティで満たし続けました。私はバーバがまだ私と一緒にいると知っていて、私の中にいる彼の存在が途切れることは全くありませんでした。その体験は、私を完全に支えてくれたのです。

